

Passion
パッション・インタビュー

今回は、社団法人留萌文化振興協会
事務局長 浅田和夫さんにお話を伺いました。

自ら学ぶ者は すべて青年である

留萌青年大学30年のあゆみ (204講座受講者3万3522名)



この日の朗談亭は、高橋明雄講師による「留萌人造石油会社」研究所の話でした。

留萌青年大学について教えてください。
昭和50年、留萌に大学誘致の運動が起こり、留萌、増毛、小平の青年有志で構成していたモアの会や留萌商工会議所、留萌青年会議所、留萌市教育委員会等が協議を重ね、昭和51年に留萌青年大学が設立されました。その後、昭和55年に、社団法人留萌文化振興協会が認可され、青年大学はその主体事業として現在に至っています。

青年大学は、さまざまな分野で活躍している講師を招き、自らを高める生涯学習の場として、全道・全国にさがかけて開設された歴史ある大学です。

これまで、どのような活動を行ってきましたか？
留萌青年大学は、自ら学ぶ者はすべて青年である」という理念のもと、「自らを高めた新しい時代を築く青年をつくる。」国際的な感覚をみがき、世界的な視野に立つて行動できる青年をつくる。「新しい政治の推進に積極的に参加できる青年をつくる。」の三つの目標を掲げ、これまでに204講座を開講し、招いた講師は延べ205名、受講者数は延べ3万3522名に達しています。

て元気をもらった」や「やっぱり実物は素敵だった」など、ほとんどがよかったという声で、次の講座に期待する声も多く寄せられています。やはり、講師のみなさんも会場にお客さんがたくさん入っていると気持ちも高まり、熱く語ってきますし、質問などの受講者とのやり取りも面白いものになりますので、ぜひ、多くの方にお集まりいただければと願っています。

課題やこれからの目標は何ですか？

留萌青年大学は、(社)留萌文化振興協会に加入している会員地元企業や団体・個人等)のみなさんのご理解とご協力により、他に例を見ない本格的な民間主導による生涯学習の場として、30年の歴史を重ねてきましたが、近年、地域経済の低迷が続く中、会員の減少が危惧されています。

また、地方ではなかなか聴くことのできない貴重な講座をもっと多くの市民に聴いていただくためのさらなるPRなどにも取り組んでいかなければなりません。これまで、多くの方々に支えられながら、30年の歩みを続けてきたこの青年大学がより一層市民に愛される場となるよう、これから

また、昭和59年には地域をテーマに話し合う青年大学生ゼミを開設しました。昭和61年からは名称を「朗談亭」と改め、広く文化的な要素を加えた内容のゼミとして現在も活動を続けています。開設30周年を迎えた今年には、貴重な30年の歴史を綴った記念誌「北の学び」を発行しました。

青年大学の特色や面白さはどんなところですか？
青年大学の30年を振り返ってみると実に多彩な講師陣とバラエティーに富んだ内容の講座が行われてきたものと思います。

各分野で活躍する評論家、大学教授、政治家、作家、アナウンサー、弁護士、漫画家、俳優、タレント、スポーツ選手、企業経営者などが、自らの体験をもとに話す講座は、普段、テレビなどでは聴けない裏話や本音トークなども聴ける、生ならではの面白さがあります。

また、講座の終了時に受講者アンケートを行っています。毎回「とてもためになった」「話を聞いて」



元プロ野球選手広瀬氏の熱血トーク

も青年大学が掲げる目標に向けて努力していきたいと思っています。

最後に、読者へのメッセージを！

青年大学では限られた財源ではありますが、できるだけ多くの人の関心を集める講座を開くよう努めています。ぜひ、市民のみなさんの声もお寄せいただきたいと思います。そして、来年もたくさんの方(受講者)で賑わうよう、市民のみなさんとともに歩んでいきたいと思っています。

PROFILE

あさだかずお 浅田和夫さん

社団法人 留萌文化振興協会
事務局長
問合せ
TEL 0164・43・0099



留萌の元気発見！ 留萌びと倶楽部



東 紀子さん
あづま・のりこ

登山歴15年。今も山の虜になっている。「山は、感動や驚きを与えてくれる。登山は、無私の境地に導いてくれ、心身ともに心地よさを与えてくれる。登山やウォーキングは、健康維持のためにもお勧めです。自分のペースでゆっくりと歩くだけです。」と笑顔で語る東さん。

白 銀の山でスキーを滑りたい！そのため山を知らなくては！と思い、暑寒岳の山開きに仲間数人と登ったのです。あいにくと頂上は、霧雨で一寸先も見えなかったのですが、なぜか私一人が感動しました。多分、頂上に着いたという満足感だけで感動したのだと思います。それ以来、夏も冬も山ばかりの生活が15年になります。未だ山に狂っております。

登 山をされない方は、何でそんなに山がいいのかわからないと思いますが、自分の性に合ったのだと思います。四季折々の花々はもちろんの事、静かに歩いていると、足元には小動物が現れたり、熊も遠くから2度も見たことがあります。流石は、幾ら遠くからとはいえ、息をするのも忘れるほど、恐ろしいものでした。

そんな訳で、街の中とは違い、危険も伴いますが、感動する場面も多いのも事実です。
冬 山は、夏山と違い、天気の良い日は、本当に神々しく目映いばかりです。また、冬山は木々や木の葉や草も雪に覆われており、その山の姿をクッキリと見せてくれます。



2005年 南アルプス「北岳」にて

神々しい白銀の山を仲間と一気にスキーで滑り降りる快感は、ゲレンデスキーでは味わえません。

まあ時としては、雪が深く格好良くとはいえないときもあります。転倒したら起き上がれないほどの深雪の時もあって、どっちが上かどっちが下かわからず、アップアップした事も一度や二度ではありません。それでも山スキーは楽しいものです。冬は天気の良い日であれば登れないのが実情です。ので、ほんの数回くらいなのですが、素晴らしい醍醐味を感じます。

今 年は、日本の五大高峰を登り切った年でもあり、私としては思い出深い年となりました。日本五大高峰とは、高い順番から富士山、北岳、奥穂岳、間ノ岳、槍ヶ岳です。

これからの目標は、出来れば世界一美しいとされる島、ミルフォードに行き、登ってみたいなと思っております。小さな山なのですが3日間かけて縦走するそうです。登山するためには、体力が要りますので、毎日千望台まで歩いてあります。皆さんも登山を始めて見ませんか？ 本当に楽しいですよ。